



連携の輪の広がりで見られる魅力を生み出す。



花園マルシェの様子

◆取組を開始したきっかけ

花園商店街では、昭和38年頃にアーケードが設置され長らく商店街のシンボルとして地域住民から愛されてきた。近年、組合員数の減少などにより維持費の負担が重くなってきたところに、老朽化による改修工事が必要となったため、平成23年に撤去されることとなった。

アーケードの撤去により、商店街は太陽の光が差し明るい雰囲気となったが、反面、シンボルであったアーケードがなくなったことで、商店街とは名ばかりのただの「通り」になってしまうとの危機感も抱かせることとなった。そこで、これを逆手にとり、生まれ変わった商店街を記念してテント市である「花園マルシェ」を開催した。この取組が好評であったことから、続けて実施することとなり、マンネリ化しないように工

夫を凝らしながら毎月開催を続けている。

また、商店街にはシャッターの下りた空き店舗が目立つようになり寂れた雰囲気を呈するようになった。このような折り、愛知県商店街振興組合連合会の商店街マネージャーと豊橋技術科学大学建築サークル(以下「技科大」とする。)から、空き店舗を改装して学生や社会人が学習したりコミュニケーションを図ったりするためのコミュニティスペースを設置する提案を受けた。

商店街では、買い物客が利用できるトイレ不足の解消や休憩スペースの確保にもつながることから、コミュニティスペース「HANACOYA」の設置を決め、両者と連携の上平成25年4月に開設した。技科大とは、その後も協力して商店街を盛り上げている。

取組 花園マルシェ



イベント



連携・協働

取組の概要 >>>>

花園マルシェは、花園商店街で毎月第4土曜日の午前10時から午後4時まで開催されているテント市だ。毎回平均10ブース程度の出店があり、野菜や果物などの旬の食材や花きなどの特産品が数多く出店される。

花園マルシェ開始当初は、マルシェを開催すること自体が変わったことをやっておもしろいと人が集まったが、次第に集客が悪くなったため、イベントを併せて開催するようになった。



▲夏は開催時間を延長して夜も楽しめる

例えば、7、8月は夜8時30分まで開催時間を延長し、キャンドルナイトと称して市民が作ったキャンドルを通りに並べ、その前でコンサートを開いた。

また、愛知大学地域政策学部の学生が花園マルシェの夏のイベントで空き店舗にお化け屋敷を作ったところ、入場するのに2時間待ちとなるなど好評であった。そのことが縁で、豊橋のまちなかマップを学生に依頼し、発行した。

技科大が新都市の古民家再生に取り組んだ縁で、新城に住む再生プロジェクトの関係者が鮎を焼いて販売するなど、連携の輪が広がっている。



花園商店街は、年配の女性向けの衣料品店が多く、若い世代への知名度が低いことから、このようなイベントの実施により若者が商店街に興味をもって訪れるようになることを狙っている。

取組

コミュニティスペース「HANACOYA」



連携・協働



空き店舗

取組の概要 >>>>

「HANACOYA」は、寺子屋のイメージと誰でも気軽に来てくつろげる雰囲気をもつ空間だ。かつて美容院だった築30年以上の空き店舗を、技科大の学生が手作りで内装工事と机や椅子の製作を約4か月掛けて行った。商店街と商店街マネージャーは、あいちモリコロ基金の資金を獲得するなど資金面での支援を行っていた。

昼間は買い物客の休憩スペースや市民活動の拠点として市民が集い、夜間は中高生・大学生が自習したり勉強を教えたりするコラーニングスペースや社会人が仕事をするコワーキングスペース、利用者同士が雑談し情報交換する場として活用されている。

商店街では、「HANACOYA」を情報発信の拠点と捉えている。商店街単独で大売り出しなどの取組を行っても新たに人を呼ぶのには限界があるが、「HANACOYA」利用者がここを拠点として展示会を開くなどさまざまな活動を行うことにより新たに商店街を訪れる人が増え、商店街のイベントとの相乗効果で効果的に情報発信が行われている。



▲コラーニングしている様子



▲イベントを楽しむ子どもたちの様子

◆取組の効果・課題等

花園マルシェの実施により、商店街と学生の連携が深まり、工夫を凝らしたイベントの併催によりマルシェへの若者の来客者も徐々に増えているなど一定の効果が認められる。しかしながら、一過性のイベントだけでは、組合員の売上を伸ばすのは難しいのが現実だ。

今後は、レトロな商店街の雰囲気と近隣に仏閣や老舗店舗が立地する特徴を活かした取組が検討される予定だ。

「HANACOYA」は、開設後の情報発信の拠点としての機能はもとより、店舗改修期間中にも学生が集まって

作業をしている様子を見に来る人などで人通りが多くなる効果があった。このとき集まった人が更に人を呼び、例えば、地元中学校の社会貢献活動の一環として中学生が老朽化した店舗のペンキ塗りをしたり、アマチュアアーティストが空き店舗のシャッターに絵を描くなど、人と人がつながる輪が拡大し、商店街に関わる人材が増えている。

機能面では、現在スタッフ専用の2階フロアの有効活用について様々な方面の人を交えて検討しており、新たな展開が期待される。

商店街DATA 花園商店街振興組合

所在地 ● 豊橋市花園町 アクセス ● JR・名鉄豊橋駅 徒歩8分 設立年月日 ● 昭和26年 組合員数 ● 25名
代表者 ● 岡本 卓也 TEL ● (0532)52-4486